



傾城水滸傳第十編

馬
國安馬

3019
10



13
3019
10

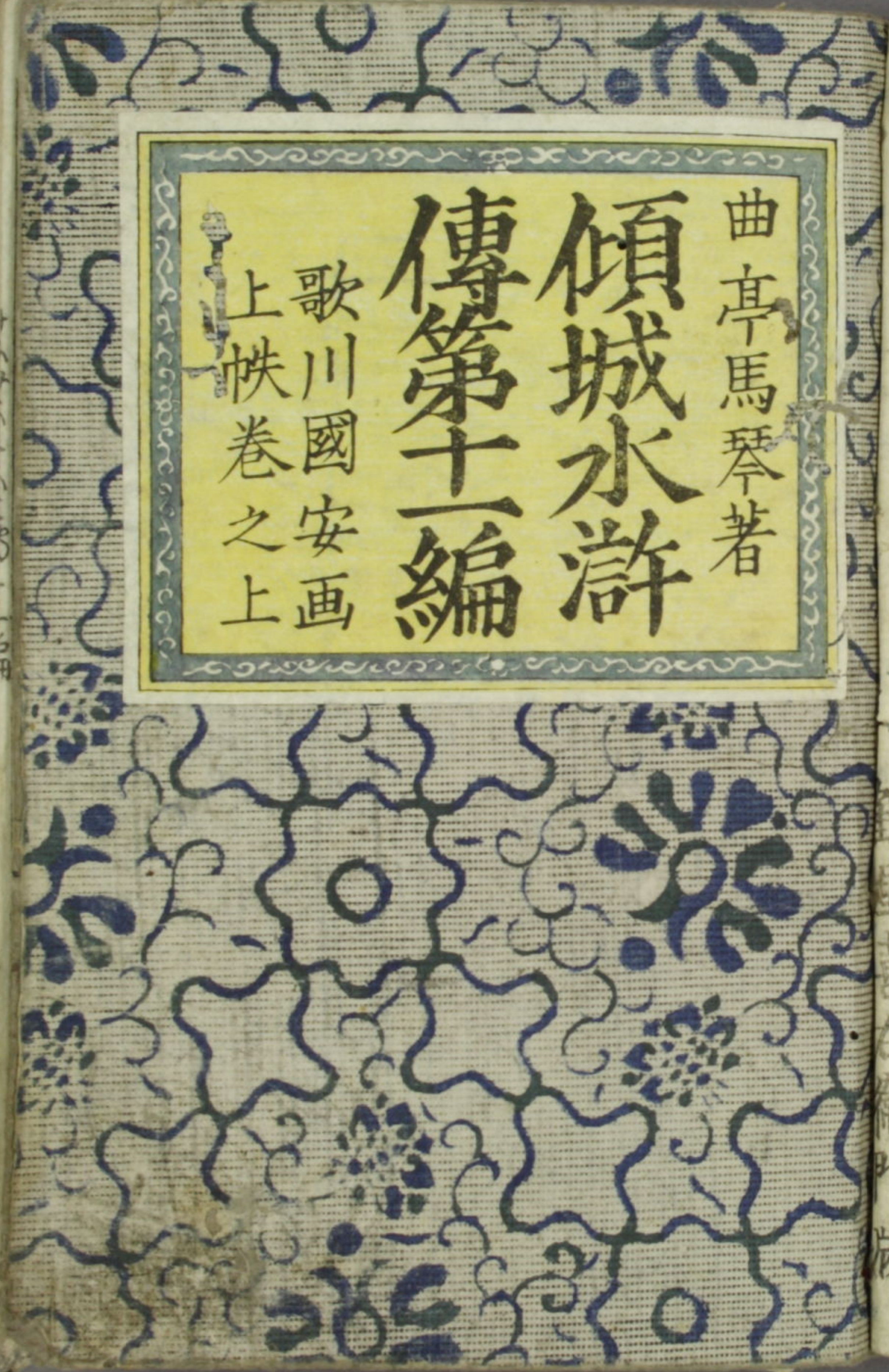
上

江戸通油町書肆
鳥屋喜右衛門版

曲亭馬琴著

傾城水滸
傳第十一編

歌川國安画
上帙卷之上



原本水滸傳の鮮珍鮮寶雙越獄と一段と按ずる所の出申せ珍
 と室と追落したる矢傷大虫の原是毛太公の兒子毛仲義が射て
 のれとのるも毛老のより鮮家の兄弟の説示と利を分りて該るに毛
 老虎と推隱と謀く鮮珍鮮寶を隠れしる非如腹織者をもさで
 人情の違ふ似たりとて這編の柱官膺坂毛太夫の幸目将舎の親の時
 より恨ありその舊怨を復さんとて支云と綴易う毎編の筆削る其具
 眼の人の知るべし又段の前後の見れる扈成亦宋廷玉の奸黨ある
 就中亦宋廷玉の萬丈無當の武藝あり宋江これを降して躬方の資あり
 ける作者の腹裡を推量する祝氏の梁山泊る豪傑と怨と結ぶと久
 のやく官軍の大將より秦明呼延灼関勝徐寧張清の輩と同トから
 ざるよあれは然るを明の鴈宕山推が水滸後傳の書四十四回本全
 卷古宋送民其者と考

又扈成なる者乾隆三十五年の重訂の扈成亦宋廷玉と再出一つを梁山泊の
 殘黨と合體せし免宋廷玉の殊なり亦阮小七孫立亦の上席の坐よりを
 作りたるやあつて特の前傳の作者の用意の粗語とといふ況かの殘
 黨の又山寨の相取ひく海賊と做さる如くの彼後傳の作者も亦宋江
 百人の小初善中惡後忠の二女寺ありと知て宋の忠臣なり後亦復結
 る魔物と考むる譬言は日琴を焼て鶴と云ふる類るべし其の略評を坂
 る同好の友の示せし比混江龍李俊とて摠大將の做したる快らぬ所あり
 柴進とてと相應のめとのひらけたるけれども予の猶もよありのけれ彼後
 傳の批評も然るべし別れ又後傳の一書を新作せられたるのよ暇
 けれど因るよその腹稿とせしも鳥許の所為を有ける

文政十四年辛卯春正月吉日新板

曲亭馬琴識



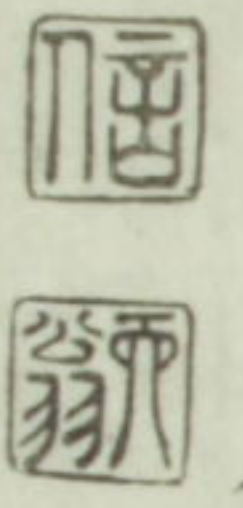
ナニカ(たいてい)の十一編



あひのまは
うそおく
なりのひんよ
あまき
乃 智
つう
さ
あま

哨子照響

麻姑手
早蕨



十萬里山狩倉



山又山幸賣





川社雛形



あせとのわくま
合砥礪新王

大正十一年四月十日



塩沢 番
万里西店



その上のあき天... (Vertical text columns on the right side of the left page, likely commentary or dialogue related to the scene.)

山崎... (Additional vertical text at the bottom of the left page, possibly a signature or further notes.)



あつたはあつた... (Vertical text columns on the right side of the right page, including dialogue and commentary surrounding the two women.)

舟の舟... (Marginal text on the left edge of the left page.)

舟の舟... (Marginal text on the right edge of the right page.)



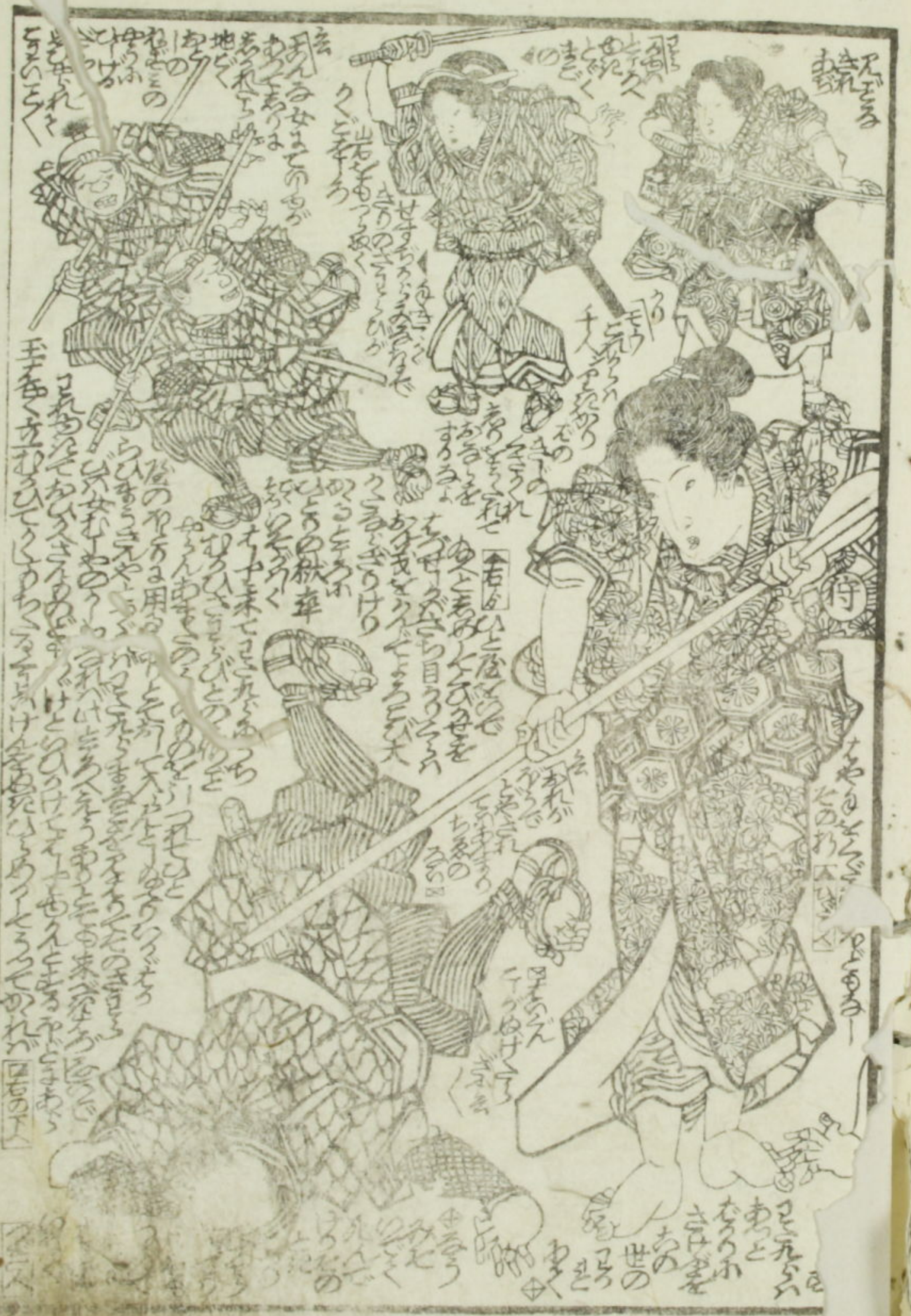
五世の...
十一編

六





ナハナハ上ハ一カの一カ用



カハカハ上ハ一カの一カ用



年代記見童講譯 初編全三編 當年上梓 山東庵京山作

此稗中ハ神代のむらより年代記の考へるもの外にれたるを補ひたりしを此の巻に終らぬを以てこれを上とす

御祝儀日童講譯 初編全六編 全部上梓 山東庵京山作

此稗史の正月の松うらを始とすはつに終を祝の七の日の事はつうけのりまをまて十二月の夜美日の故吉末を感とす

奉獨舊古中本 全一冊 山櫻連々 逸軒揺舟 合作

此の書は春とまのむらに初めの官人より下へて披見ありしはつうけのりまをまて十二月の夜美日の故吉末を感とす

劇場顯微鏡 上帙二冊 彩色入 默々渙隱著

これ劇場考古博覽の緒者述する新劇の重なりといふも皆故實
監視のミとさして着き観るの短則とさしていまのこれ等の状態を
うらみたることでも支那のほくしりのゆゑにそのくわくを知られて
おのゝ功効たることでもそのほくしりのゆゑにそのくわくを知られて
おのゝ功効たることでもそのほくしりのゆゑにそのくわくを知られて

本朝 繡像艶容女仙外史 初編 五冊 默々渙隱纂

この書は唐山の逸史か華を著せし妙案を奇談怪説とすおあり
記著るれば元来で本朝は翻案の作なりといふは短大愚陋と取日本
のころは他の唐賽見を弁の内儀を長利尊成を王に擬して一箇の演戲を
つゞいさる曲亭翁の輿論を効ありのり着官の謀君子とよく高評をのそ
あひへ決編をえきあつらんををいへるわたり

頭微鏡 萬邦劇場談 上下 二冊 默々渙隱著

元へ初編ののきてる法を故よりそめ唐山天竺魯亞阿茶花木の著
てく劇場にわたりする在言のむむむむむむむむむむむむむむむむむむ

瀧澤篁民著

迎福南鍼録

一名相宅手引草 全部五冊 近刻

右同著

雅俗百傳奇

大本全五冊 繪入 平假名附 近刻

右重具遠々川板林活通湖書林 仙鶴堂小林喜右衛門印行

近來選擇相宅の書年々月々行れて五車の
盈生は汗を流するにたふさげたる法を初め
を解きたるこれ其の書の編紀辨功書本
に海福と穰人福を述べ宗と宗と宗と宗と
を學ぶとて其を不辨のほくしり難し行
をみる太一家の主人たるの常小坐若小指と吉
凶無各の惑るるは有用有益良籍なり

この書ハ雅と俗とをわける行状は古の
訓傳・釋録ののく勸懲の一端をさるる
義訓尚氣即操の世を提れるより愚説を合用
技藝好事ののりも得し小随て漏まらぬ
是併善見人の進歩と欲し大かきまらぬ
警又喜言のその巻中毎巻出像ありこと
緒とた覚むる巻重なる異聞瑰奇の亦書なり

曲亭馬琴著

傾城水滸
傳第十編

歌川國安画
上帙卷之下

馬琴著

每篇八卷上下二帙合本每帙二冊

此は是軍師吳竹が連環の計
弛く張り與く奪ふ老氏の教誨

傾城水滸傳第十編之三

悍く奢り悔く潰ゆ兵家の懺誠
聞道祝部母女が打出の杭

國安画

江戸通油町書林鶴屋喜右衛門板









木下尚江の御世

十四



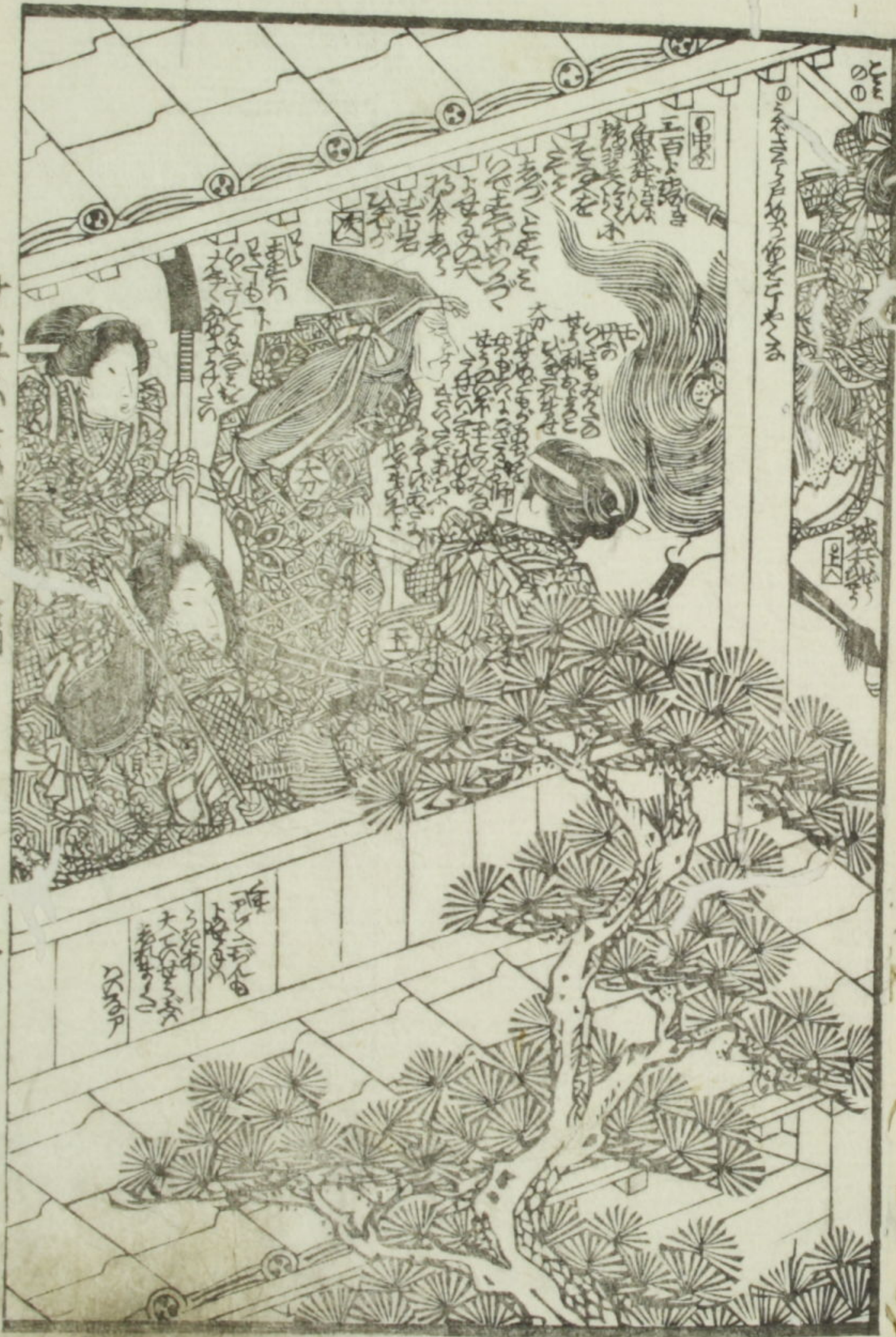
大和太夫

十六



大和太夫

十五



ナカニシヤノイハシ

十一



ナカニシヤノイハシ

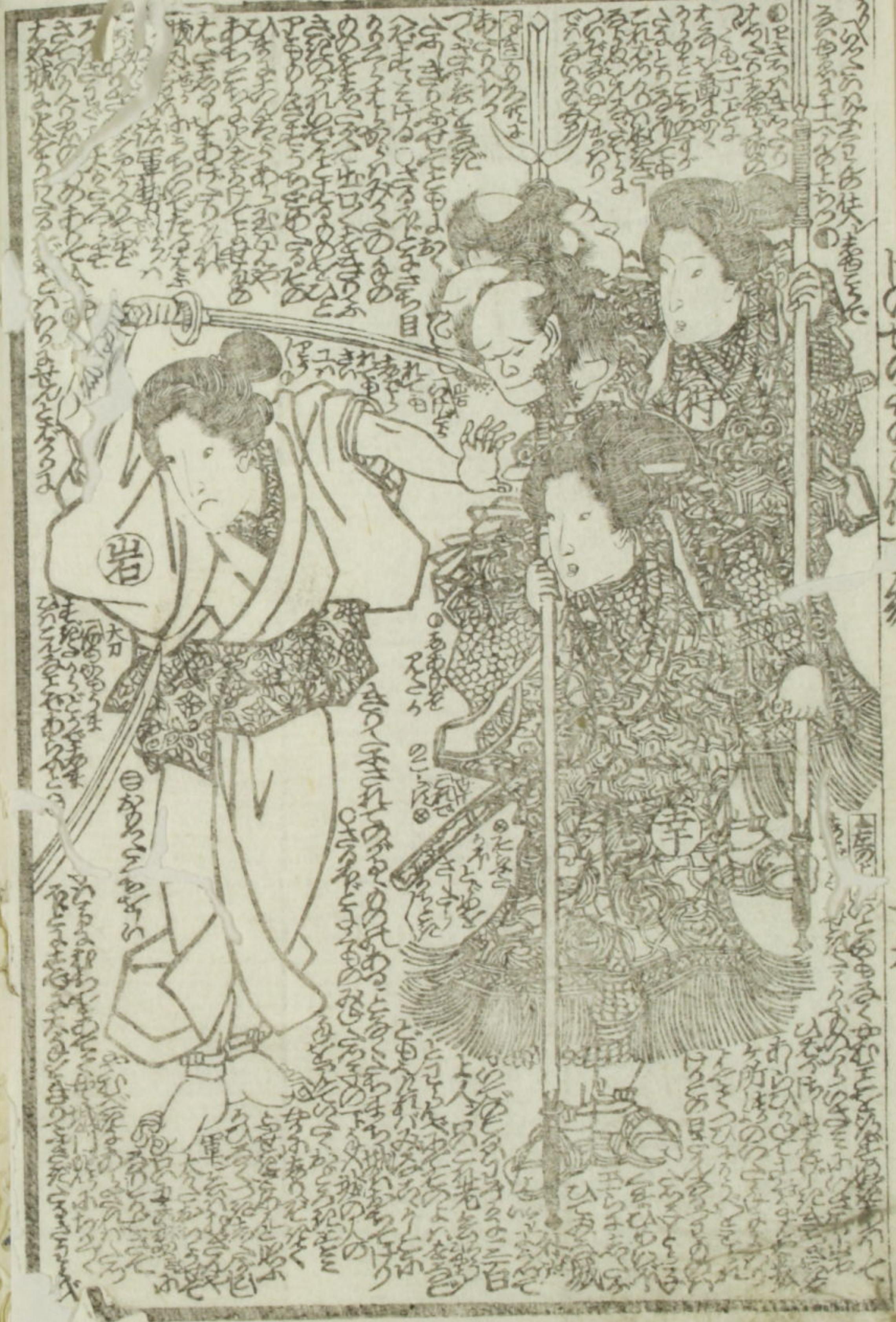
十一







ナカカハシイ 巻十一 冊



ナカカハシイ 巻十一 冊

馬琴作



家傳神女湯... 御色... 國宝画... 精製... 御色... 國宝画... 御色... 國宝画...

御色... 馬開板所... 每年一月下旬... 御色... 馬開板所... 每年一月下旬...

載陽帖... 南山禪師書... 東海道... 道法早筭用道中記... 載陽帖... 南山禪師書... 東海道... 道法早筭用道中記...

新撰... 日本名所之繪... 唐紙摺一枚... 蕙齋鋏形紹真筆... 新撰... 日本名所之繪... 唐紙摺一枚... 蕙齋鋏形紹真筆...

新撰... 女古狀揃園生竹... 大木... 高井蘭山編撰... 新撰... 女古狀揃園生竹... 大木... 高井蘭山編撰...

還魂紙料... 柳亭種彦隨筆... 古画入二冊... 還魂紙料... 柳亭種彦隨筆... 古画入二冊...

田喜菴輯... 芳... 芭蕉... 田喜菴輯... 芳... 芭蕉...

隨筆... 玄同放言... 初編二編... 隨筆... 玄同放言... 初編二編...

右才三編... 初編二編... 右才三編... 初編二編...

三畝莊木本校輯
芳州集全冊 開國
同輯 板
禁蘭集全冊 追
戲筆遊言画手本一名鳥羽繪早さかひ出棠

廣益 懷中早割大金 小本
塵劫記 前編出來 後編嗣刻 先生せいしん後ご編へん嗣しゆ刻こく

芝居似顔早替古 後編 全冊五渡亭國貞画
八文字自笑評 後編 全冊

藝品定役者評判記 全冊
即考百鑑 全一冊

傾城水滸傳 初編十編上巻下巻
合物端歌彈初 全冊柳亭種茂校訂
はろ 江戸乃名所 初編四冊
矢猛心兵交 全十冊
春狂言善悪鏡 全六冊
修紫田舎源氏 初編三編
美艷仙女香翠翁 仙香坊
黒油美玄木目翠翁 坂本氏製

柳亭馬琴作 歌川國貞画
東海道花の都路 諸大人
隅田川西岸覽 北齋筆 全冊
江戸名所東鑑 蕙齋筆 全冊
江戸名所物見行 清長筆 全冊
右四通共松上品にて書
柳亭種彦作 歌川國貞画

書物錦繪 江戸通油町
問屋鶴屋喜齋

分再板
此知





馬琴作
國安画

女大虫



第十編

文政辛卯孟陽仙鶴堂印

下



曲亭馬琴著

傾城水滸
傳第十編

歌川國安画
下帙卷之上

江戸通油町書肆

為屋喜丸繪門版

當場惟剿滅強敵九雌兩雄來歸水泊

馬琴著 每篇八弓合本四冊

傾城水滸傳 第十壹編參

文政辛卯孟陽續刻

國安画 彩色帙帙上下二套

江門書林僊鶴堂梓

簡末乃擇結赤繩月下水人能全前約

五



第十壹編





上ノ軍の陣

九二

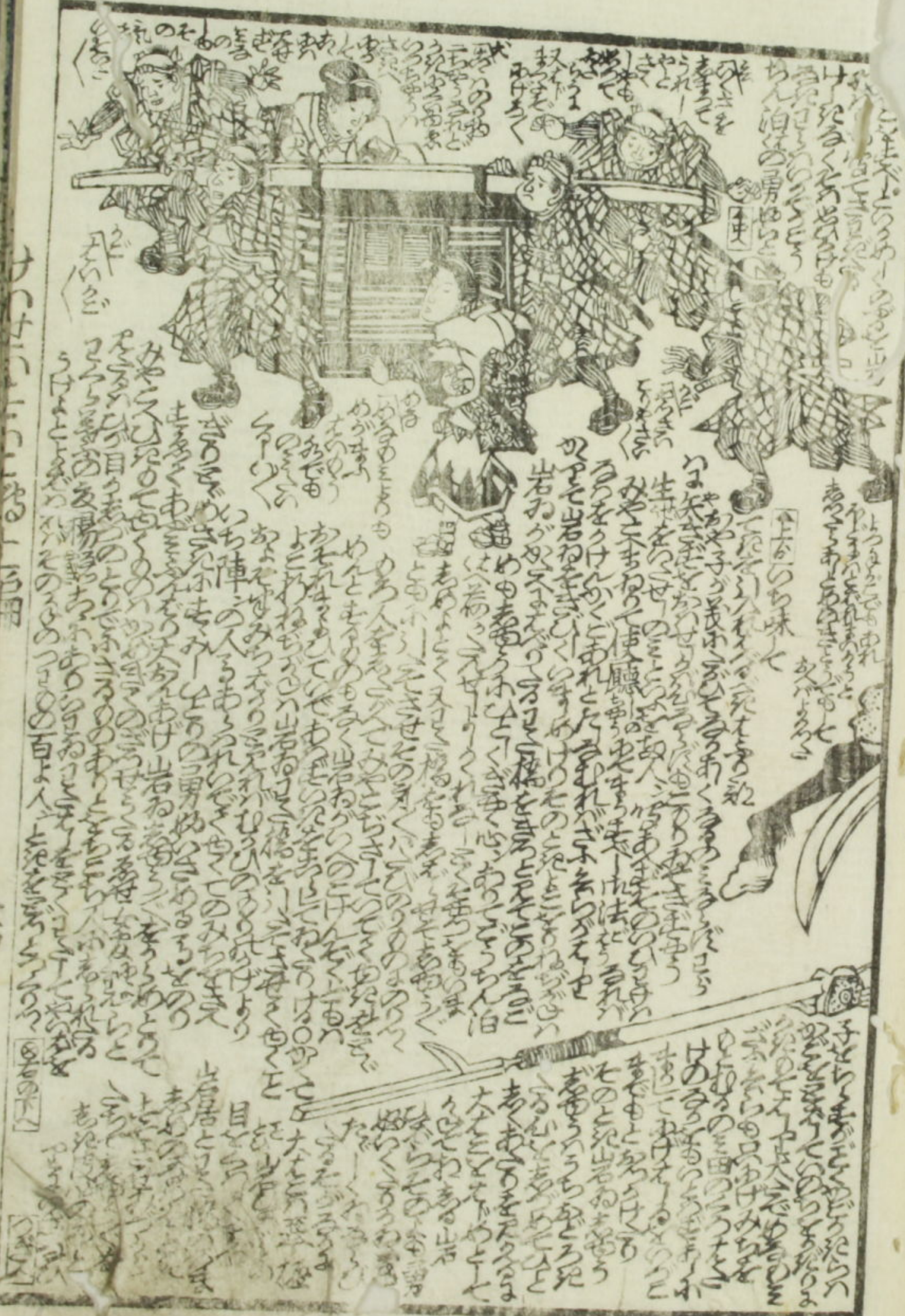


大正十一年四月一日



大正十一年四月一日

九三



大に稀々母の結とされ方ゆりの女

卅四



六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十



六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十



ナニカカシカシ
ナニカカシカシ
ナニカカシカシ



ナニカカシカシ
ナニカカシカシ
ナニカカシカシ



そのうち... 黄道... 吉... 勇...

箱... 和... 木... 勇...



へん... 文... 人... 中... 百... 一... 二... 三... 四... 五... 六... 七... 八... 九... 十...

胡... 人... 日... 月... 星... 雲... 霧... 雨... 雪... 風... 雷... 電... 火... 水... 土... 金... 木... 火... 土... 金... 木...







御免江戸醫開板所 毎年十月下由りて、奥秘り中の
載陽帖 南山禪師書東海道
道法早筭用道中記 一枚撮

撰新 **日本名所之繪** 唐紙摺一枚 蕙齋銀形紹真筆
撰新 **女古狀揃園生竹** 大木本 両品出来高井蘭山編撰

還魂紙料 柳草種彦隨筆 計の何枚か拙女の挿画あり
昔のしぐさ 芭蕉仙翁の撰、巻末の園生竹の挿画あり

撰 **玄同放言** 初編二編共 先んて巻末の挿画あり
叢筆 右才三編三冊、巻末の挿画あり、初編二編の挿画あり

隨筆 右才三編三冊、巻末の挿画あり、初編二編の挿画あり

芳州集 全兩册
蘭集 全兩册
遊言画手本 一名鳥羽繪早すなはち出来

懷中早割大金 全一册
新形染彩目 植花并糸 前編出来
似顔早替古 後編 全一册 五渡真國真画

忠臣水滸傳 繪入十册
稗史水滸傳 初編六編迄共三册
水滸傳劇場雛形 初編四册
稗史水滸傳 七編八編迄新板柳亭種彦譯

水滸傳 豪傑雙六歌川國芳画
繪本三國志 初編八册出来 重田貞一譯
繪本漢楚軍談 初編五編迄 共三十一册出来

忠臣水滸傳 繪入十册
稗史水滸傳 初編六編迄共三册
水滸傳劇場雛形 初編四册
稗史水滸傳 七編八編迄新板柳亭種彦譯

水滸傳 豪傑雙六歌川國芳画
繪本三國志 初編八册出来 重田貞一譯
繪本漢楚軍談 初編五編迄 共三十一册出来

繪本漢楚軍談 初編五編迄 共三十一册出来

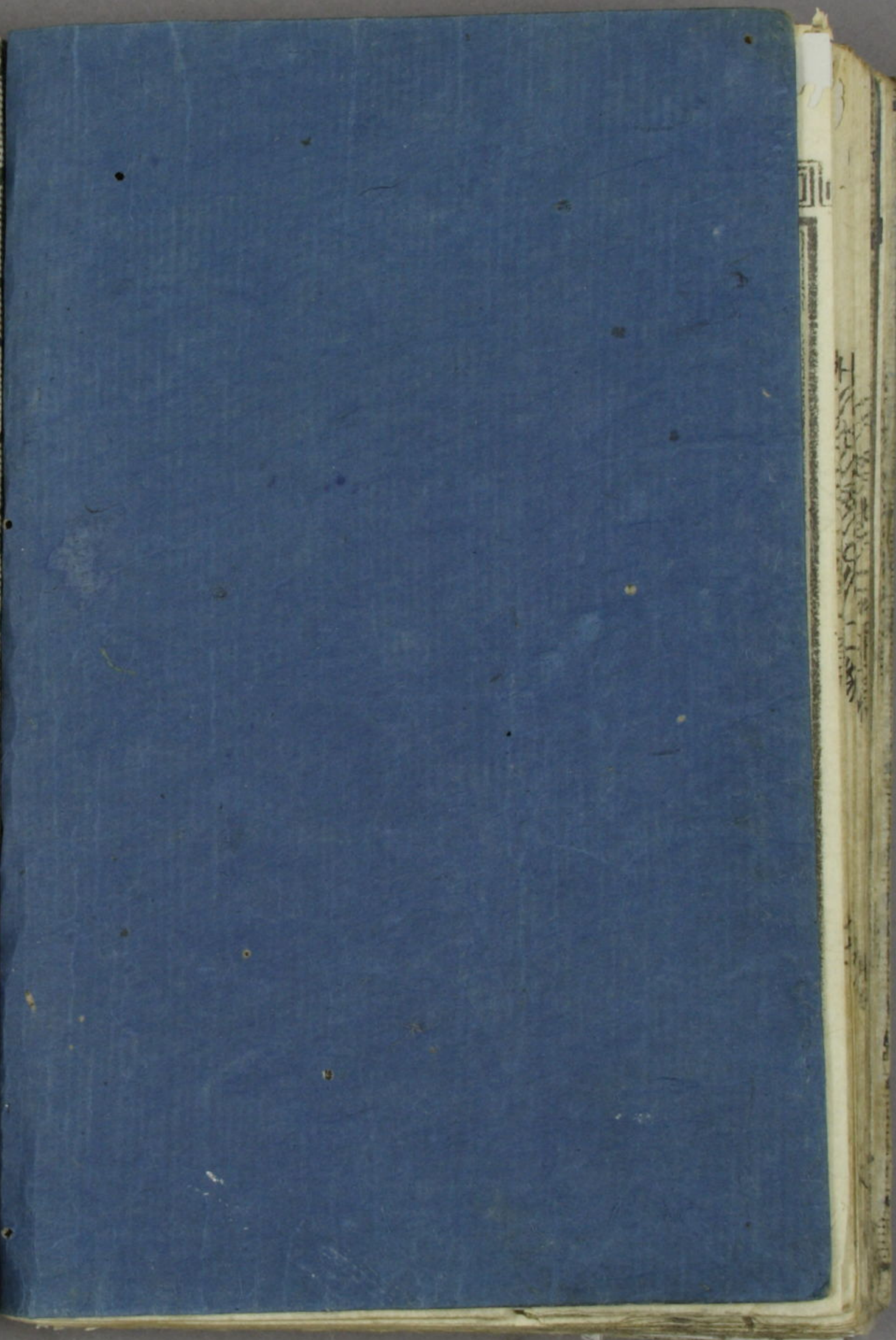
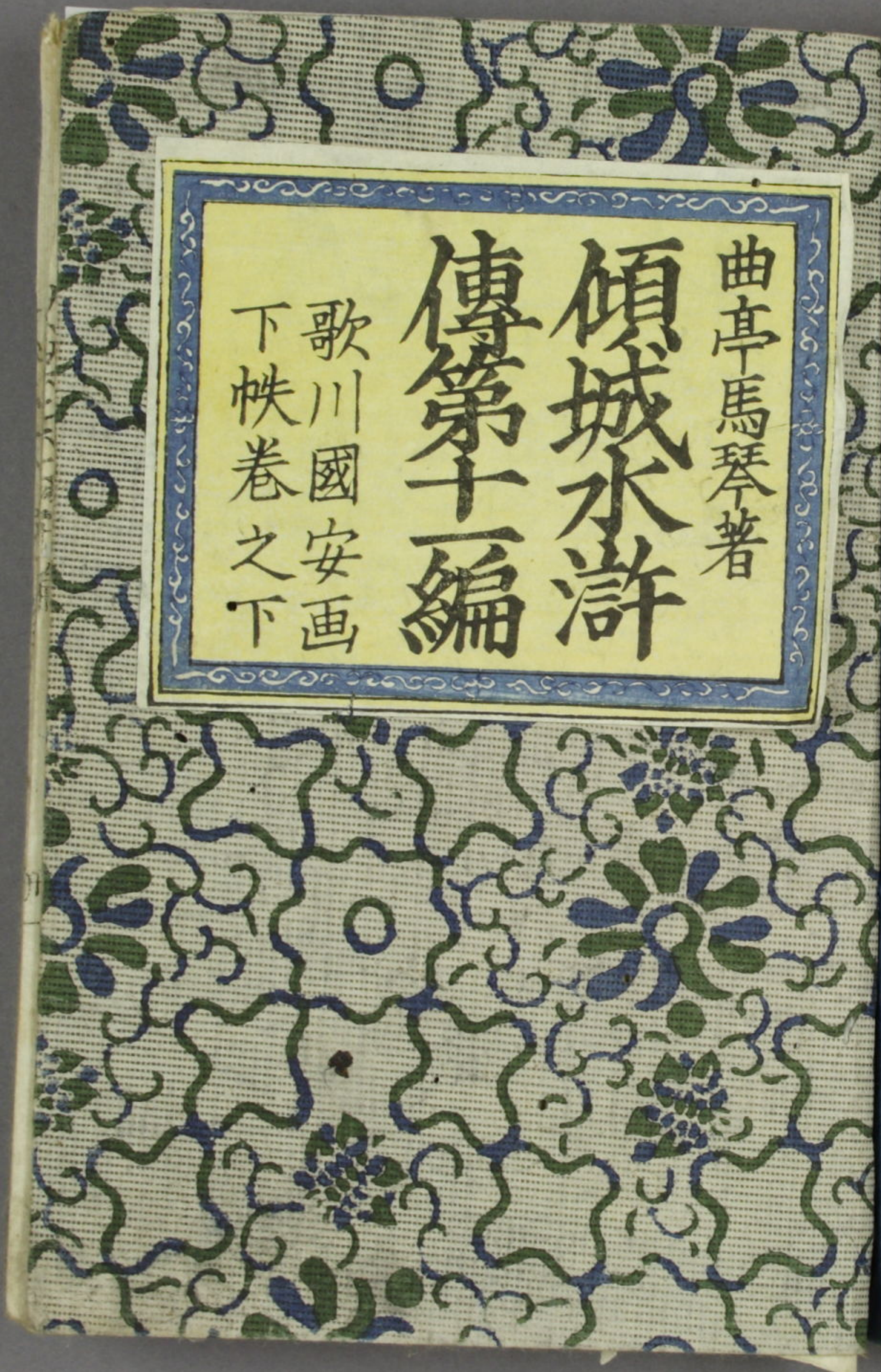
繪本三國志 初編八册出来 重田貞一譯

繪本漢楚軍談 初編五編迄 共三十一册出来

曲亭馬琴著

傾城水滸
傳第十編

歌川國安画
下帙卷之下



傾城水滸傳第一編

馬琴著
 繪本 傾城水滸傳 第一編
 非優心の小丈夫れその
 拜の多を皆之悉が居居結
 落花小勇婦乃逐電

第四套
 文政十四年辛卯孟陽發販
 活通油町鶴屋喜右衛門梓

國安
 身と捨て記代
 良朝女の大義膽
 路天由朱良井配乃
 月下小舊敵の再會

Illustration of two figures in traditional Japanese attire. The figure on the left is a woman in a kimono with a circular emblem on her chest. The figure on the right is a man in a patterned kimono and hakama, holding a long staff or sword. Below them is a large diagram with a central circle and various lines and text, possibly representing a narrative or a specific scene. The entire illustration is surrounded by dense handwritten text in kuzushiji script.



十二世の御史

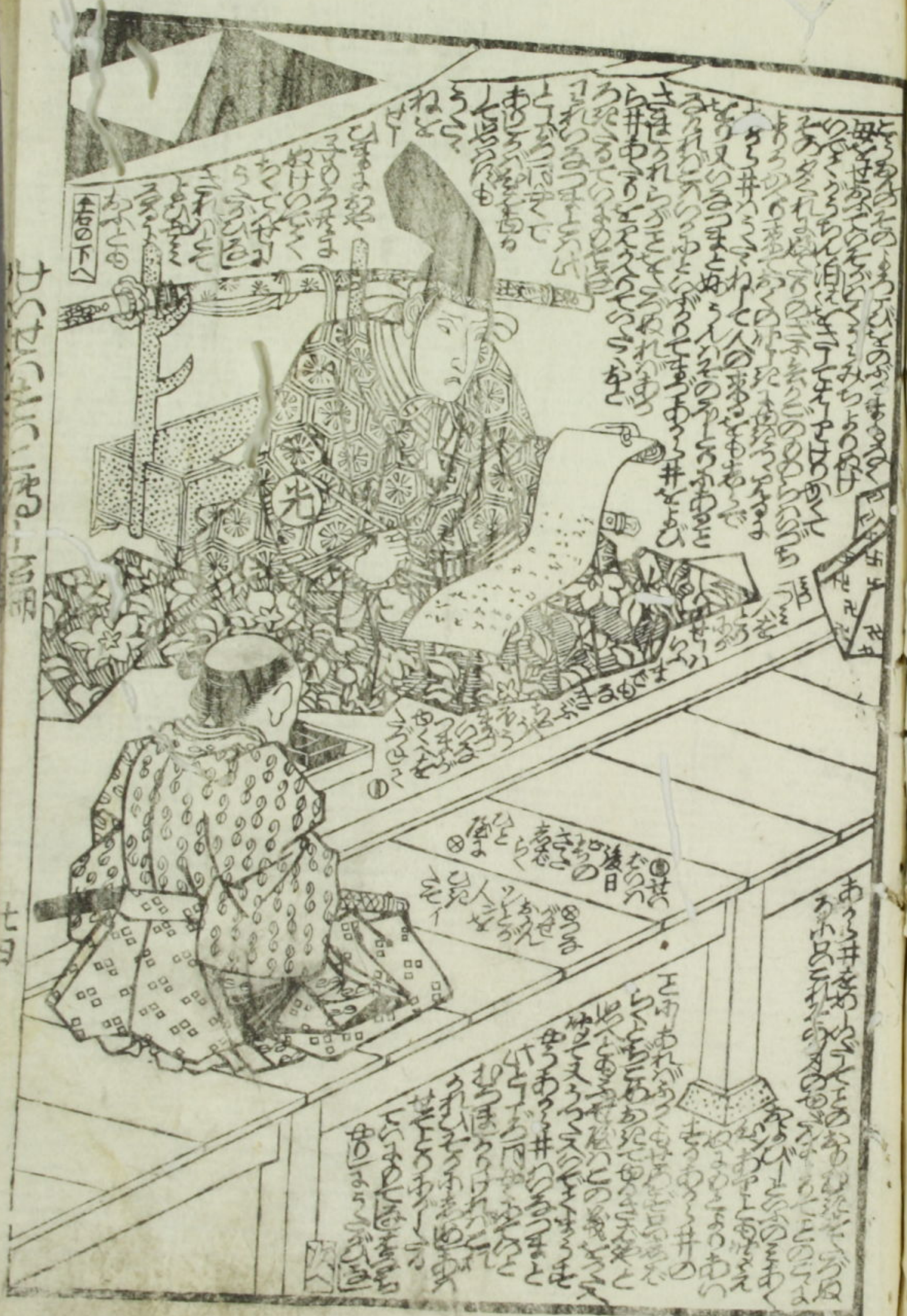


ナ(カ)ニ(イ)の(上)冊

廿二

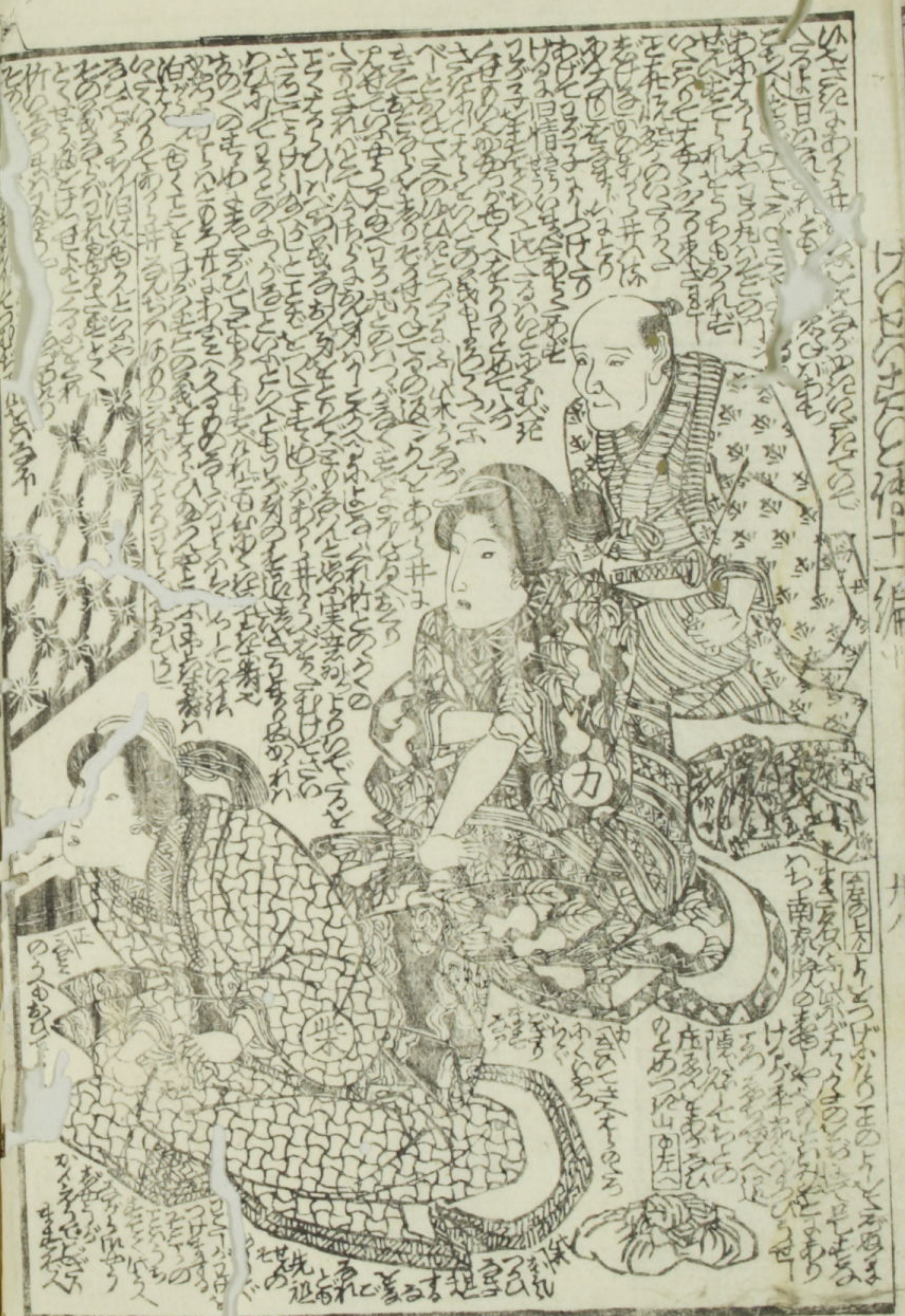
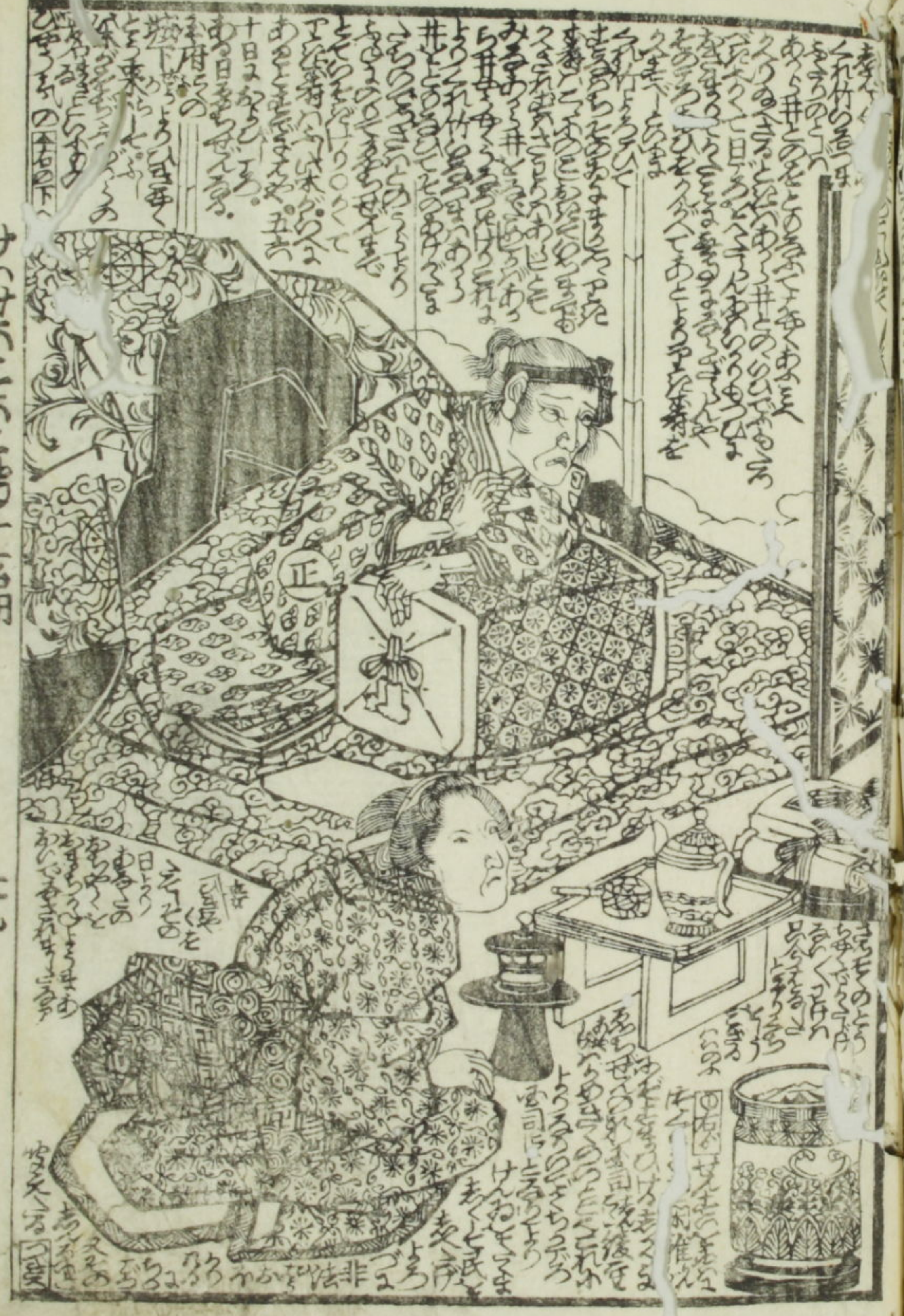


ナ(カ)ニ(イ)の(下)冊









大由極盛者乎。... 附荷国の大いの三年。... 大由極盛者乎。... 附荷国の大いの三年。...

七人... 名正... 日一



大由極盛者乎。... 附荷国の大いの三年。... 大由極盛者乎。... 附荷国の大いの三年。...

非... 日一



家傳神女湯 婦人の病を治すに神女が湯を授けし事
 精製奇應丸 大包代朱中包代朱
 熊胆黒九子 熊胆を九子に分ちて
 婦人の病を治すに神女が湯を授けし事
 製茶本家 神田明神下滝沢氏

馬琴作
 神書
 谷金川



國安画

年代記見立講譯 幼編全編
 此神史の神代の物語より年代記の考へた外小のたを
 補ひかゝりて二部に分ちて繪入ありしを此に合はせしむ

御祝儀日童講譯 幼編全編
 此神史の正月の松うらを始りて終りにするまで
 はづのうらをまて十二月の松うらまでをまて

奉獨 稽古 中本 全一冊
 山櫻連々 逸軒 揺舟 合作
 この書は奉古の神代史の初めの官人より終りにて
 神代史の神代の物語より年代記の考へた外小のたを
 補ひかゝりて二部に分ちて繪入ありしを此に合はせしむ

戲場顯微鏡

上帙而下 戲場顯微鏡 黙々 漢隱 編纂

戲場顯微鏡 上帙而下 戲場顯微鏡 黙々 漢隱 編纂

本朝艶容女仙外史

初編 九冊 黙々 漢隱 編纂

本朝艶容女仙外史 初編 九冊 黙々 漢隱 編纂

頭微鏡 萬邦劇場談

上下 黙々 漢隱 著

頭微鏡 萬邦劇場談 上下 黙々 漢隱 著

龍澤篁民著

迎福南鍼録

一名相宅手引草 全部五冊 近刻

右同著

雅俗百傳奇

大本全五冊繪入 平假名附 近刻

右書具 遠くは岡坂住む河通浦書林 仙鶴堂小林喜右衛門印行

迎福南鍼録 一名相宅手引草 全部五冊 近刻

雅俗百傳奇 大本全五冊繪入 平假名附 近刻

